

### (三) 国内外における教育・研究交流

#### (イ) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性

大学院についても国際交流の推進に関する基本方針は、「3. 学士課程の教育方法・内容」の「国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性」の項で述べた『本学と諸国・諸地域の高等教育・研究機関（大学および高等研究機関）の間で教育と研究における国際協力を推進し、そのために学生と教職員の交流を増やし、互いの高等教育の質を高める。これにより、本学学生・教職員が諸国・諸地域の学術・文化・経済・社会制度について理解を深め、交流相手機関との相互友好を築くことにある。』である。本学は、この考えに基づいて国際交流に取り組んでおり、大学院教育における国際交流の目的と意義の明確化は為されている。

#### (ロ) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性

修士課程・博士課程の国際交流は、韓国の亞洲大学校との間で修士課程では相互の、博士課程では亞洲大学校から本学への学生受け入れが実施された。特に、平成 11 年 4 月に開設された博士課程では亞洲大学校からの交換留学生在が非社会人としては本学初の課程博士となった。この学生は、学位取得後帰国して韓国 SAMSUNG 社に入り研究開発に活躍している。現在二人目の博士課程交換学生を受け入れている。現在交流が活発化しつつある米国の 2 大学と本学との間で、大学院レベルの交換留学が実現すれば、それは本学の国際化を一步も二歩も前進させる。米国の大学との大学院レベルでの学生交換は、学生に目に見える目標を持たせ、勉学意欲を促す。したがって、学生への影響と効果が大きい。

米国大学大学院との学生交換プログラムは、本学学生の学力水準向上に国際交流が果たす役割として重要である。ただし、米国大学との交換留学には学生が越えるべきハードル“英語力の問題”がある。講義を正式に受講できるには、通常 TOEFL のスコアで 500～550 点（ペーパーテスト形式）が要求される。これは現在の本学学生にとって高いハードルであり、越えるのは容易でない。したがって、国際化を進めるに当たって、学生の“ある程度講義の聴ける英語力”養成が本学の緊急課題となる。英語圏大学との国際交流の活発化は、英語力という課題の克服にきっかけを与える。なお、OSU には CSUH の ALP と同じ機能を持つ The English Language Institute (ELI) があり、英語力が基準に達していない学生については、ELI の講義対応アカデミック訓練コースで、1 Quarter Term ないし 2 Quarter Terms の英語力向上学習を課すこととしている。このように欧米大学、特に米国大学、との学生交流活発化は新たな問題も生むが、全体として交換学生制度整備に対する本学の対応は適切な方向にあると云える。

上に述べた大学院レベルの学生交換は研究交流も含む。一方、教員の新たな研究交流が協定校との国際交流で生まれている。中国の南京理工大学については、毎年 3 月本学

の教員を派遣して先方の大学院生を主な対象に集中講義を行っている。このことをきっかけに 3 次元画像技術に関して、先方の教員と本学教員間で学术交流が始まっている。また、オレゴン州立大学とは、光磁性半導体薄膜の特性改善に関するコラボレーションが行われる方向にあり、研究交流は情報工学関係も含めて今後増えるだろう。

本学では、国際交流の活発化により、大学院レベルの学生交流や教員間の学術研究交流が大学国際化の社会的要請に沿って動きつつあり、国際交流について全体として適切な方向付けが為されていると評価する。